

# 平成28年度 事業報告

## はじめに

日本経済は、雇用・所得環境がやや改善し、今後も緩やかな回復基調が続いていくといわれていますが、海外経済の不確実性等下振れのリスクも抱えており、先行きは依然として不透明な状況にあります。

健診・検査を取り巻く環境としましては、過労死問題など、社会的に労働者の健康管理への意識が高まってきております。また、がん検診では、制度や実施方法の見直し等も検討されており、動向を注視していく必要があります。

このような状況を踏まえ、当協会では、平成27年12月から施行されたストレスチェック制度にかかるシステム・実施体制の充実を図るとともに、各種がん検診・特定健診・特定保健指導においては、積極的な受診勧奨や受診しやすい環境づくりを推進するなどし、受診率の向上に努めました。また、超高齢化社会に突入している我が国において、喫緊の課題となっている認知症の発症予防を支援するため、もの忘れや心身の老化の状態をチェックし、改善に向けたアドバイスを行う「もの忘れリスク健診」を開始しました。さらに、例年実施している予防医学フォーラム等講演会についても開催するなどし、予防医学の知識の普及・啓発に努めました。

経営面においては、「働く世代の大腸がん検診推進事業」による無料クーポン制度の終了等減収要因はあったものの、健診センターでは施設健診の実施数を増設、また健康ライフプラザでは神戸市国民健康保険加入者を対象とする特定健診とがん検診の同時受診が可能なセット健診の受診者数の増、さらには出張健診における新規受託等もあり、前年度以上の収入を確保することができました。健診センター及び御影健診センター改修工事にかかる減価償却費も徐々に落ち着いてきていることもあり、平成28年度は当期経常で約5,800万円の黒字を計上することとなりました。

今後も基幹システムの更新にかかる高額投資が控えているなど、当協会を取り巻く状況が厳しいことには変わりはありませんが、すべての役職員が業務の様々な局面でコストや効率化についての意識をもち、経費の抑制とともに新しいニーズにも柔軟に対応していくことで、経営基盤の持続的な安定を目指してまいります。そして、市民・県民の健康保持増進のために、健診・検査の精度向上及び予防医学事業の進展に努め、広く社会に貢献するという公益財団法人としての使命を果たすために、更なる努力を続けてまいります。

# 事業の概要

## 公益目的事業

当協会は、行政諸機関や地域医療機関及び保健機関との密接な協力関係のもと、各種健診・検査、健康支援及び健康教育等を行い、県民・市民の疾病予防と健康増進に寄与することを目的とし、次の1から4の公益目的事業を実施した。

### 1. 疾病予防に関する知識の普及・啓発事業

#### (1) 広報・情報提供

##### ①機関紙「あすの健康」の発行

予防医学の知識の普及・啓発や健康づくりに関連する情報を広く提供することを目的に機関誌「あすの健康」を発行し、地方公共団体、関連団体、事業所及び各種団体等を通じ県民に健康情報等を発信した。

##### ②ホームページでの情報提供事業

協会ブログを新たに開設するとともに、当協会内の出来事や関連法令、規則の変更等を即時に掲載し、広く発信した。協会ブログの所在地・問い合わせのページでは、モバイル環境での閲覧対策（WEBレスポンス対応）を図り、スマートフォン利用者でも見やすくする等、利用しやすいものにした。

#### (2) 講演会開催、講師派遣、普及・啓発活動

予防医学の知識の普及・啓発を目的として、昭和46年に県民・市民等を対象に「予防医学講演会」としてスタートした活動も現在、「予防医学フォーラム」「いきいきライフセミナー」「がんをよく知るための講座」「働く人の健康づくり研修会」を定期的に開催している。今年度は、次に示すテーマで開催した。

また、地方公共団体、健康保険組合、地域団体等からの要請を受けて講演会・講座への講師派遣を行った。

##### ①講演会開催

###### (ア) 予防医学フォーラム

昭和61年より、予防医学の普及・啓発を目的として、病気の話をはじめ、健康づくりや教養等様々なテーマを取り上げ、神戸新聞社との共催で開催している。今年度の開催内容は以下のとおり。

◇開催日 平成28年11月12日（土）

◇場所 神戸新聞松方ホール

◇講演 テーマ 「こわい物忘れ、こわくない物忘れ—認知症の予防と早期発見」

講師 神戸大学名誉教授・神戸学院大学リハビリテーション学部教授 前田 潔 氏

◇対 談 前田 潔 氏  
聞き手 元神戸新聞論説委員 古山 桂子 氏

◇後 援 兵庫県／神戸市

◇参加者数 671名

(イ) いきいきライフセミナー

平成6年より、毎年9月のがん征圧月間にちなみ“がん”や“健康”等をテーマに神戸新聞社との共催で開催している。今年度の開催内容は以下のとおり。

◇開催日 平成28年9月10日(土)

◇場 所 神戸新聞松方ホール

◇講 演 テーマ 「おいしさの秘密－科学の目で解く－」

講 師 龍谷大学農学部教授 伏木 亨 氏

◇対 談 伏木 亨 氏

聞き手 元神戸新聞論説委員 古山 桂子 氏

◇健康表現体操 指 導 健康運動指導士 他

◇後 援 兵庫県／神戸市

◇参加者数 392名

(ウ) がんをよく知るための講座

平成10年度より、日本人の死亡原因のトップである“がん”について、最新の治療方法等、専門家から正しく新しい知識を学ぶことをテーマに、神戸新聞社との共催で開催している。今年度は以下の2回を開催した。

(i) ◇テ ー マ 「膀胱がん－低侵襲治療、尿路変向から再発予防まで－」

◇開催日 平成28年7月1日(金)

◇場 所 神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ 5階多目的室

◇講 師 西神戸医療センター 泌尿器科 部長 伊藤 哲之 氏

◇参加者数 67名

(ii) ◇テ ー マ 「肺がん診療の最前線－体にやさしい治療のために」

◇開催日 平成29年2月28日(火)

◇場 所 神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ 5階多目的室

◇講 師 神戸大学大学院 医学研究科 外科学講座 呼吸器外科学分野  
教授 眞庭 謙昌 氏

◇参加者数 68名

## (エ) 働く人の健康管理研修会

平成8年度より、事業所等における従業員の健康管理をサポートするために開催している。第47回を迎えた今年度の開催内容は以下のとおり。

- ◇テーマ 「がんにならないために・がんになってしまったらーがん患者の就労支援」
- ◇開催日 平成29年1月24日(火)
- ◇場所 健診センター 5階多目的室
- ◇講師 香川大学医学部臨床腫瘍学 教授 辻 晃仁 氏
- ◇参加者数 58名

## ②講師派遣

事業所や団体が開催する講演会、健康づくり教室等へ次のとおり医師を派遣した。

○講演会へ医師派遣：9回

テーマ「熱中症にはご用心」「その健診受けっぱなしではありませんか?」「ジェネリクス医薬品」「糖尿病対策について」「インフルエンザについて」など

## ③普及・啓発活動

### (ア) 結核・乳がんに関する知識の普及啓発

結核及び乳がんの早期発見を目的に、地方公共団体や各種団体が主催するキャンペーン事業に協力し、胸部X線検診車による結核検診及び乳房検診車による乳がん検診を行った。

- こうべ福祉・健康フェア：結核検診受診者233名
- 母の日乳がん検診街頭キャンペーン：乳がん検診受診者35名
- ピンクリボンフェスティバル神戸大会：乳がん検診受診者20名
- 結核ハイリスク者に対する早期発見および蔓延防止のための啓発活動  
結核検診受診者：1,010名

### (イ) 認知症予防に関する知識等の普及啓発

認知症予防に向けた自己健康管理への支援活動としてあんしんすこやかセンター、事業所のOB会、地域の自主グループなどを対象に認知症予防事業を行った。認知症予防に関する知識の普及啓発として講話を、さらに希望される団体にはタブレット端末を使用した認知機能スクリーニングを行った。

- 講演会：19団体 参加者 722名
- 認知症スクリーニング：6団体 参加者141名

### (ウ) メディアとの連携

要介護予防事業の一環として、引き続きラジオ関西、神戸新聞社と連携し、認知症の予防啓発や高齢者の健康な生活の提案を目的に、「頭にいいラジオ」を製作・監修した。内容は、脳トレーニング、食生活、回想、コミュニケーション、運動などに加え、リスナーと直接コミュニケーションがとれる“な

ぞなぞ”を日替わりで放送した。その内容は神戸新聞電子版でも聴くことができる。

## 2. 疾病予防のための健康診断及び検査事業

### (1) 地域保健

#### ①特定健康診査及びがん検診

地方公共団体からの委託を受け、市民健診（国保特定健康診査・後期高齢者健診・若年者健診）を拠点会場において集団健診で実施した。休日健診実施や胃がん・乳がん検診同日実施等受診者サービスの向上を図り受診率の向上に努めた。健康ライフプラザにおいては、受診率の向上および受診者サービスの向上を目的として、神戸市国民健康保険に加入する方を対象に、特定健康診査とがん検診の同時受診が可能な「セット健診」を引き続き実施し、受診者数は前年度より約900名増加した。

一部の自治体の市民健診会場においては、保健師や健診スタッフが重症化予防のための啓発を行い、要医療への未受診勧奨を行った。また、セット健診の受診者には、健診終了後原則全員を対象に、保健師、看護師、管理栄養士が、当日の身体、血圧、血液検査、尿検査の結果を説明し、要医療者への受診勧奨を行った。加えて、問診票による「COPD（慢性閉塞性肺疾患）リスクチェック」の結果に基づき、COPD検査（呼吸機能検査）及び禁煙支援を実施して重症化予防のための啓発を行った。

胃がん・乳がん検診は、通年で地域巡回により実施し、休日の検診実施を含めて受診率の向上に努めた。また、乳がん検診においては、医師・技師をはじめとするスタッフ全員を女性で実施する等受診しやすい環境づくりを推進し、受診率の向上に努めた。

大腸がん検診は、通年での市民健診同時実施に加え、冬季（11月～3月）限定での郵送方式で実施した。平成23年度から5年間継続的に実施された国のがん対策事業である「働く世代の大腸がん検診推進事業」による無料クーポン制度の効果もあり、これまで順調に受診者が増加してきていたが、当事業の終了を受け、前年度と比較して約15,000件の減少となった。今後は、引き続き県下自治体が行う事業を支援し、受診者の拡大に向けた広報活動及び受診勧奨に係る積極的な提案等を行い受診率向上に努めていく。

#### ②結核検診

地方公共団体より委託を受け、拠点会場において集団検診で実施した。また、神戸市からの委託を受け、症状があっても医療機関を受診しないハイリスク者に対する休日や夜間検診及び住所不定者や小規模事業従事者も含めた多様な生活形態への配慮と利便に工夫した検診を実施した。

今後もさらに受診しやすい環境を整備する等、受診機会の確保に努め、県民・市民の結核予防に寄与していく。

#### ③エイズ（HIV/AIDS）検診

神戸市からの委託を受け、神戸市の中心街である三宮地区において、土曜日や夜間に定期実施を行っ

た。

夜間検診で同時に実施できる性感染症検査では、例年通り梅毒、クラミジア検査を実施した。なお、クラミジア検査については、血液検査よりの確な診断が可能である尿による検査を平成26・27年度と同様に実施した。今後も受診者へのプライバシーを配慮し、受診しやすい環境を整えていく。

#### ④もの忘れリスク健診

認知症発症予防を支援するため、もの忘れや心身の老化の状態をチェックし、改善に向けたアドバイスを行う「もの忘れリスク健診」を開始した。

### (2) 学校保健

県下の各市町教育委員会及び大学・私立学校法人からの委託を受けて、地区医師会の協力を得て、学校保健安全法に基づく腎臓・糖尿病検診、寄生虫検査、心臓検診、脊柱検診及び結核検診を実施した。検体検査分野を始めとして、地方公共団体による入札制度により厳しい状況であったが、児童・生徒の疾病予防及び健康管理に寄与するために健診検査の質を低下させることなく、ニーズに応えた日程調整を行う等円滑に実施するためのきめ細やかな取り組みを行った。

また、教職員に対する定期健康診断、特定健康診査及び各種がん検診を実施し、各学校における健康管理の充実を図った。

少子化により児童・生徒数は減少傾向にあるが、今後も積極的な検診実施に取り組むとともに、専門医との連携による検診精度の維持・管理に努め、県下の児童・生徒の疾病予防及び健康管理に寄与していく。

### (3) 産業保健

地方公共団体や一般企業等の事業所で働く人を対象に、労働安全衛生法に基づく定期健康診断、特殊健康診断及び行政指導によるVDT健診等、職業性疾病予防と早期発見を目的として健診・検査を実施した。

地方公共団体等における入札制度や見積り合せにより厳しい状況が続いているが、当協会が所有する検診車の機動力を生かした出張健診による迅速で柔軟な対応や精度等が評価されたことにより、新規受託や既存契約先と継続して受託することができ、継続的な健康情報の提供による事業所の労働衛生の向上及び働く人の健康づくりに貢献した。

メンタルヘルス対策にかかるストレスチェック制度については、システム・実施体制の充実を図り、健康診断と同様に新規受託や既存契約先と継続して受託することができ、今後は更に「こころ」と「からだ」の両面から健康の管理・増進に取り組み、働く人の健康づくりを進めていく。

### (4) 総合健診

県民・市民の疾病予防と健康増進を目的として、神戸市灘区の健診センターと神戸市兵庫区健康ライフプラザの2施設において、総合健診を実施した。

多様なニーズに応えられるよう、総合健診のコースは、「半日ドック」、「2時間ドック」や「一泊ドック

ク」に、オプション検査として「胸部CT検査」、「頭部MR検査」、「骨量測定」、「マンモグラフィ検査」、「乳房超音波検査」、「子宮頸がん検査」等、希望に応じて幅広い総合健診を提供するとともに、健診センターでは「肺ドック」や「循環器ドック」、健康ライフプラザでは「脳ドック」や高齢者の要介護予防を目的とした「いきいきライフドック」を実施した。

近年では胃内視鏡検査の需要が年々高まってきており、可能な限り実施枠を増やす等対応しているが、医師の確保や稼働率の向上が課題となっている。

今後は受診者の待ち時間の更なる短縮を図るとともに、結果説明・要精密検査者への受診勧奨と継続フォローなどのアフターケアをさらに充実させ、魅力ある総合健診を提供し、県民・市民の健康増進に寄与できるよう努めていく。

## (5) 保健指導

### ①各種健康診断結果等を踏まえた地域・職域における保健指導

地方公共団体の市民健診会場や事業所に出張して健診結果等を踏まえた保健指導を実施し、健診の継続受診や要医療者への受診勧奨を行った。また、市民健診会場において前年度の健診結果における要医療者のうち、未受診者への受診勧奨を行い、早期発見・早期治療のための受診の動機づけを行った。

また、事業所等へ出張により腰痛予防体操、健診結果の見方等の研修会を実施し、健康で働き続けるための支援を行った。

### ②労働安全衛生法に基づく労働者の健康管理、作業管理等における保健指導

平成26年3月に11年ぶりの改正となった「健康づくりのための睡眠指針2014」を踏まえて、睡眠に問題を抱えた人は生活習慣病やうつ病のリスクが高まることや、熟睡のコツについての情報を盛り込んだ研修会を実施し、作業効率改善や安全な労働の確保に必要な自己健康管理について学ぶ機会を提供した。

### ③高齢者医療の確保に関する法律に基づく特定保健指導

国民健康保険をはじめ、全国健康保険協会並びに各種健康保険組合等の被保険者及び被扶養者に対し、主に会場に出張して特定保健指導を実施した。初回支援を個別指導で実施し、以後6ヶ月間にわたり、プログラムにそって階層化で分類された動機付け支援・積極的支援を面接・電話・レター等で指導を実施した。

### ④メンタルヘルス事業のための保健指導

ストレスチェック制度の施行に伴いシステム化し、平成28年1月からストレスチェック事業を開始した。共同実施者契約を締結している事業所については、事業所実施事務従事者等に対してストレスチェック導入に関する啓発や助言等を行い、実施者である産業医（面接医師）に対しては、高ストレス者選定方法についての事前打ち合わせを実施した。また、従業員からの電話相談対応、高ストレス者には医師の面接勧奨を電話やメールで行った。

加えて、メンタルヘルス対策の充実・強化のため、事業所職員のセルフケアについての健康教育に関して、コミュニケーション等についての研修会を実施した。

#### ⑤H I V等の感染症に関する知識啓発、検査及び指導

夜間H I V抗体・性感染症検診及び即日H I V抗体・H B s 抗原検診等において、検査前の事前説明と検査結果説明を通じて保健指導を行い、予防に関する知識啓発を行った。

#### ⑥電話等による各種相談

当協会での受診結果について、電話等で各種の健康相談に応じ、夏季の脱水や感染症等時事的な健康問題をはじめ、受診結果以外の事柄等についても可能な範囲で健康相談に応じていくことで、広く県民の安心に寄与できるように努めた。

### (6) 細胞診

喀痰細胞診について、神戸市肺がん検診のうち、健康ライフプラザで実施されたセット健診分は約2,700件あり、前年度より約800件増加した。一方、通常の神戸市医師会経由分では約6,000件で前年度より約2,000件減少した。これは、神戸市がこれまで対象条件を拡大して受け入れてきた40歳代での検査を本来の50歳以上に見直すよう、医療機関への周知を図ったためである。なお、当協会内部検査分は約800件で前年度とほぼ同数であった。

神戸市子宮頸がん検診について、通常検診(20歳以上・2年毎)は、セット健診の約700件を含め、約23,000件で、前年度より約3,000件減少した。また、「無料クーポン券」による検診においても約3,800件で、前年度より2,600件減少したが、こちらは対象者が前年度の「平成25年度の未受診者及び20歳を迎える方」から今年度の「平成23年度及び26年度の未受診者及び20歳を迎える方」に変更となったためである。医療機関からの検診以外での受託分は、約3,000件で前年度より約400件減少し、当協会施設内検診分は約8,600件と前年度より約600件増加した。

次年度は神戸市子宮頸がん検診において、標本作製方法が直接塗抹法から液状処理細胞診(LBC)に変更となるため、円滑な移行に向け、関係機関との調整等を行った。

### (7) 腸内細菌検査

今年度より、腸内細菌検査のスクリーニング法として遺伝子検査(マルチPCR)を新規導入した。今年度の実施件数は約87,000件で、前年度より12,000件の増加となった。近年、競合入札制度により受託検体数が大きく変動しており、安定した検体数確保のためにも、契約先のニーズに対応した付加価値(食品検査・衛生調査・精度重視)の充実を図り、実施件数の増加に繋げていく。

神戸市保健所からの感染症対策に基づいた腸内細菌(赤痢、パラチフス、腸管出血性大腸菌O157)及び喀痰検査については、今年度も引き続き検査を受託した。今後も検査精度の維持向上に努め、保健行政に貢献していく。



## (8) 作業環境測定

総合労働安全衛生機関として、「働く人の健康維持増進や快適な職場環境の保持・創出」を目的に健診事業と併せて、有害物質取扱い事業場を中心に屋内並びに屋外作業場あるいは居室を対象として、作業環境測定を実施した。

近年の有害物質の新たな法規制拡大や監視強化、事業者の健康意識の高まりを反映して、1,422箇所の測定を実施した。特に、昨今の胆管がん問題等産業活動に起因する健康被害の注目により、印刷、洗浄、塗装業務等に使用される有機溶剤並びに特別有機溶剤等を対象とする測定が220箇所であり、前年度に比べて増加した。

今後も、特殊健康診断と一体となり、総合判断に基づく事業場の労働衛生管理の改善を支援していく。

## (9) 食品検査等

食品営業者の保存試験や食中毒予防に関連した自主衛生管理に基づく検査であり、今年度の実施件数は、理化学検査において項目数で1,490件、細菌検査においては8,303件であった。

腸管出血性大腸菌、カンピロバクター、ノロウイルス等による食中毒予防や異物混入防止に対する消費者並びに食品営業者の関心は常に高く、食品営業者はより高度な衛生管理が求められていることから、今後も衛生管理指導、施設衛生調査、窓口相談業務の充実や、きめ細かい顧客対応により衛生管理体制の構築を支援していくとともに、HACCPによる衛生管理の導入推進が求められるなか、食品営業者における導入推進のために適切な指導、助言を行うことでHACCPの導入を支援していく。

## (10) 水質検査

今年度の実施件数は、建築物衛生法や飲用井戸に係る水質検査、プール及び公衆浴場等衛生管理上の水質検査は合計で2,218件であった。

今後も、飲用に関わる水質検査及びプール・公衆浴場等の衛生確保に資する検査を中心に事業を進め、利用者の安全性の確保に寄与していく。

## (11) 水道施設検査（貯水槽水道検査）

ビル、共同住宅、学校等の一定規模の貯水槽を有する施設における水道設備の衛生的な維持管理にかかる検査であり、今年度の実施件数は、県下の水道法に規定される簡易専用水道が3,294件、有効容量が10<sup>m</sup>を下回る小規模受水槽水道が782件、その他準用等を含めた合計は4,076件であった。

今年度は、神戸市による定期検査未受検小規模受水槽水道に対する巡回調査業務を受託し、郵送による受検勧奨、現地での点検実施及び啓発、あるいは情報収集を実施した。

貯水槽水道検査結果等は、設置者の了解を得たうえで、それぞれの自治体に速やかに報告することで、衛生上問題がある施設に対する行政の指導や、定期検査受検率の向上に寄与するとともに、引き続き貯水槽水道の衛生的な維持管理や自主衛生管理を支援することにより、利用者の安全安心の確保に寄与していく。

### 3. 予防医学に関する調査研究事業

#### (1) 調査・研究

がん検診や特定保健指導をはじめとし、各種健診・検査において得られたデータ等をもとに調査研究を行い、様々な分野でそれらの成果を発表・発信した。

##### ①論文発表（総説論文、原著論文等）

○池窪勝治：甲状腺疾患による気管偏位に関する検討. 総合健診 日本総合健診医学会（JHEP）  
Volume 43/Number 5 September (567-575)31-39, 2016

##### ②学会報告等

- 山浦泰子：大動脈弁硬化と喫煙歴・禁煙歴との関係，日本心エコー図学会第27回学術集会，大阪，2016.4.22-24
- 高橋かおる：5年以内の糖尿病発症に及ぼす生活習慣変化要因の探索・歩行速度との関係，日本糖尿病学会年次学術集会，京都，2016.05.19-21
- 高橋かおる：Changes in lifestyle habits and subsequent risk of type 2 diabetes in males and females, 11<sup>th</sup> IDF-WPR Congress2016(国際糖尿病連合西太平洋地区会議)，台湾，2016.10.27-30
- 東塚伸一：大腸がん検診—逐年受診の重要性等について，第44回兵庫県医療職団体協議会合同研修会，神戸，2017.1.22
- 益田襟子：当支部における対策型視触診併用乳がん検診の現状について—視触診除外の可能性とその問題点—，第51回予防医学技術研究会議，広島，2017.2.23-24
- 宮地晴恵：巡回健診の準備（パッケージ業務）への取り組みと課題，第51回予防医学技術研究会議，広島，2017.2.23-24
- 荒川夏子：特定保健指導記録の標準化と効率化をめざして—指導記録をコード化する試み—，第51回予防医学技術研究会議，広島，2016.2.23-24
- 篠原弘珠：郵送法における大腸がん検診の検査有効期間の検討，第51回予防医学技術研究会議，広島，2017.2.23-24
- 小西晴美：認知症予防に対する試み—50歳からの脳力アップセミナー—（第2報），第51回予防医学技術研究会議，広島，2017.2.23-24
- 水津京子：上部消化管内視鏡スコープのATP検査による清浄度評価について，第51回予防医学技術研究会議，広島，2017.2.23-24
- 山浦泰子：Association of Aortic valve Sclerosis Development and Hypertension in Middle Aged Working Subjects with Atherosclerotic risk Factors.，第81回日本循環器学会学術集会，金沢，2017.3.17-19

## (2) 健診・検査で得られたデータの活用

### ①事業年報の配付

内容の充実を目的に、平成27年度事業年報の編集において、循環器二次検診、胸部二次検診、骨粗鬆症検査、上部消化管内視鏡検査をその他の二次検診等として新しく加えた。

健康管理、健康対策の基礎資料等として地方公共団体・保健医療機関等広く配布し情報提供した。

### ②健診・検査データ等の活用

#### (ア) 統計解析や調査研究結果に基づいた判定や保健指導の実施

検査データの積み上げにとどまらず、問診データ等の諸条件に基づく複合的な統計処理を行い、生活習慣、既往歴等、更には性格的要素等と健診・検査データの関連性を見出し、実際のデータから得られた知見等を保健指導・栄養指導に有効活用した。

○特定保健指導記録の標準化と効率化をめざして一指導記録をコード化する試みー

#### (イ) 統計解析や研究により取得した情報の提供

健診・検査データの統計処理から得られた知見や、健診で用いられる様々な検査の意義等の情報を講演会や学会等で発表し、健康管理に役立つ情報を積極的に発信した。

○シンポジウム『循環器系の検査と結果の見方』を開催し、「健康診断時の心電図検査」「血圧測定」「血液検査で診る動脈硬化の危険因子」についてそれらの検査の方法や意義、生活の改善方法等を、臨床検査技師、看護師がわかりやすく解説し、循環器の専門医が総括し、循環器疾患の予防・早期発見のための健康診断の重要性を発信した。

## 4. 健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業

### (1) 健康づくり事業

#### ①健康学習

疾病予防や健康づくりに関する知識の普及啓発を目的に公開講座を開催した。「土曜健康科学セミナー」では疾病予防に関する知識や情報に加えて最新の医療情報や介護予防に結びつく内容を、また、「健康づくりセミナー」では食育や健康診断の検査項目に関するテーマを取り上げ、講演会だけでなくシンポジウム等受講者参加型セミナーも開催し、受講者にわかりやすく興味深いと好評を得た。

#### ②健康づくり教室

神戸市健康づくりセンター指定管理者共同事業体であるオーグスポーツと協力し、運動不足やストレス等により健康を損ないがちな県民・市民・勤労者に対し、栄養・運動・休養の総合的な面から個々に適した健康的なライフスタイルを確立できるよう、また、年代や性別、個人の体力や知識レベルにあわせて選べるように工夫し実践型教室を開催した。

#### (ア) 生活改善コース

生活習慣病の予防と改善について料理と講話で学ぶ教室「いきいき食生活」等を引き続き月例で開催した。また、慢性腎臓病重症化予防教室等についても引き続き開催し、予防啓発に努めた。

#### (イ) 介護予防コース

「認知症予防実践教室」に加え、身体を動かすことで得られるリフレッシュ感や、自分の体力の衰えを実感することで、日常生活での運動の必要性を理解し実践につなげる内容も提供した。

#### (ウ) 食育推進コース

個々のレベルに合わせた調理実習や試食を通し、栄養と健康を考えた好ましい食生活をサポートする教室を開催した。

#### (エ) すこやかコース

心の健康の必要性を知り、ストレスに対処する方法を講話や実習で体験する内容を提供した。

### ③禁煙外来

健診センターにおいて、予防医学の観点からニコチン依存症に対する禁煙治療を保険診療で実施した。

今後も当協会の受診者を中心にPRしていくとともに、3ヶ月以内に5回の来協が必要であることから、受診者のモチベーションを維持するための工夫を検討していく。

## (2) 健康づくり支援事業

勤労者や各種団体等を対象に、健康づくりプログラムを提案するとともに、管理栄養士・健康運動指導士等の専門スタッフを派遣し、健康づくりを支援した。また、健康ライフプラザのライフキッチン等の施設を活用し、実践に重点を置いたセミナーも行った。

健康ライフプラザに設置したセルフチェックコーナーでは、簡易に使える健康機器を来所者がいつでも使用できるように配置し、自主的な健康づくりの場として提供した。さらにこれらの機器を用いて、神戸市等がおこなうイベントに出向き、健康づくり活動の普及啓発を目的にした健康チェックを行い利用者に好評を得た。

《設備機器等の更新・整備》

(1) 設備機器等の更新・整備

業務の改善を目的として、設備機器等の整備を行った。

- ①胸部デジタルX線検診車
- ②画像データ保管用サーバー（2台）
- ③ホルター心電図解析装置
- ④超音波骨密度測定装置（2台）
- ⑤婦人科検診台（2台）
- ⑥腸内細菌検査マルチPCR装置
- ⑦内視鏡所見・画像ファイリングシステム
- ⑧眼底カメラ
- ⑨ホルター心電計（4台）
- ⑩胸部デジタルX線撮影装置コンソール（2台）

《寄附金受納》

○寄附者

宮本 武 様

# 事業実績明細

(疾病予防のための健康診断及び検査事業・健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業)

事業名	種別	内容	件数等		
			当年度	前年度	増減比
疾病予防のための健康診断及び検査事業	地域保健	特定健康診査等	61,130人	59,456人	102.8%
		がん検診(施設実施分含む)	129,170人	147,685人	87.5%
		結核検診	53,909人	55,238人	97.6%
		エイズ検診	2,279人	2,327人	97.9%
	学校保健	腎臓・糖尿病検診	368,013人	382,818人	96.1%
		寄生虫検査	20,573人	90,812人	22.7%
		心臓検診	74,895人	75,189人	99.6%
		脊柱検診	27,557人	30,806人	89.5%
		結核検診	77,087人	85,722人	89.9%
	産業保健	一般健診	166,452人	169,357人	98.3%
		特殊検診	18,247人	17,999人	101.4%
		協会けんぽ生活習慣病予防健診	23,807人	23,275人	102.3%
		がん検診(施設実施分含む)	80,014人	72,819人	109.9%
		労災二次健診	127人	150人	84.7%
		ストレスチェック	27,882人	—	—
	総合健診	総合健診	6,454人	6,510人	99.1%
	保健指導	特定保健指導等	577人	651人	88.6%
	細胞診	子宮がん細胞診	38,360件	43,803件	87.6%
		喀痰細胞診	9,123件	10,806件	84.4%
	腸内細菌検査	腸内細菌検査	86,848件	74,654件	116.3%
作業環境測定	作業環境測定	1,422件	1,240件	114.7%	
食品検査等	食品検査	9,793件	9,610件	101.9%	
水質検査	水質検査	2,218件	2,430件	91.3%	
水道施設検査	簡易専用水道検査等	4,076件	4,245件	96.0%	
健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業	健康づくり事業	健康学習・健康づくり教室	5,963人	6,344人	94.0%
	健康づくり支援事業	講師派遣等	82回	80回	102.5%